

国内クレジット認証委員会御中

## 審査結果概要書

平成22年12月28日

審査機関名 S G S ジャパン株式会社

### 1. 排出削減事業の概要

排出削減事業名	ニチハマテックス習志野工場における高効率ガスボイラー導入による省エネ事業
排出削減事業者名	ニチハマテックス株式会社
排出削減共同実施事業者名	オリックス株式会社
事業実施場所	ニチハマテックス株式会社 習志野工場 (千葉県習志野市東習志野六丁目18番1号)
事業の概要	重油焚きボイラーと都市ガス焚きボイラーを併用していたが、高効率都市ガスボイラーを導入し、燃料の省エネおよびCO2削減を図るものである。
排出削減量の計画	2008年度：142 tCO2 2009年度：894 tCO2 2010年度：894 tCO2 2011年度：894 tCO2 2012年度：894 tCO2 (事業実施期間合計：3,718tCO2)
国内クレジット認証期間	開始日 2009年2月2日 終了予定日 2013年3月31日
排出削減方法論	方法論番号001 ボイラーの更新

## 2. 審査結果

本事業は、排出削減事業の要件に適合している。

## 3. 実施した審査手続の概要

審査手続により、以下の排出削減事業の認証の要件の妥当性を確認している。

要件	審査手続
日本国内で実施されること	<p>事業の実施サイト視察における設備の設置場所の確認を通じ、当排出削減事業の場所が日本国内であることを確認した。</p> <p>事業実施サイトの場所：ニチハマテックス株式会社 習志野工場（千葉県習志野市東習志野六丁目 18 番 1 号）</p> <p>事業実施サイトの視察日付：2010 年 12 月 20 日</p>
追加性を有すること	<p>1) 法的義務がないこと</p> <p>本事業は、法的義務等の遵守のために計画されたものではなく、国内クレジット制度の活用により、CO2 排出量の削減を目的として実施されたことを、関係者への質問等により確認した。</p> <p>2) 設備が継続利用可能であること</p> <p>本事業が実施できない場合には、既存の設備が継続的に使用されることを質問、関係資料の閲覧、及び事業サイトの訪問時の既存製造年月日の確認等により確認している。</p> <p>3) 投資回収年数</p> <p>排出削減事業の投資回収年数は 4.0 年である。投資回収年数計算の根拠データについて、質問及び検算により正確性を確認している。</p> <p>また、投資回収年数については、補助金を除いた純投資額をもとに算出している。</p> <p>4) 追加性判断における定性要因</p> <p>当事業者は、設備の新規導入・更新及び地球温暖化防止を企業の社会的責任として重要課題と考えており、投資回収年数を問わずに投資を行うこととなっている。</p> <p>本事業の対象設備は継続して使用できるものであるため、国内クレジット制度の存在がなければ、本事業の実施は難しかったと判断できる。</p>

自主行動計画に参加していない者により行われること	排出削減事業者、及び現地視察時の関係者へのインタビューにより、当事業者が自主行動計画制度に入っていないことを確認した。
排出削減方法論に基づいて実施されること	<p>1) 本排出削減事業は、承認済排出削減方法論 001 に基づき排出削減量を計算しており、また、方法論の適用条件を満たしていることを確認した。</p> <p>・方法論 001</p> <p>適用条件 1：現地視察、設備概要などを参照し、既存のボイラーよりも高効率のボイラーに更新していることを確認している。</p> <p>適用条件 2：現地視察、設備概要などを参照し、既存の設備を継続的に利用することができる状態であることを確認している。</p> <p>適用条件 3：更新後のボイラーで生産した蒸気又は温水を自家消費していることを現地視察及び関連資料により確認している。</p> <p>2) その他、バウンダリの設定、リーケージの特定、排出削減量、モニタリング方法が適切であることについて、それぞれ質問と関連資料により確認した。</p>

上記の詳細については、別紙「排出削減事業の要件についての確認事項一覧」を参照すること。

#### 4. 特記事項

- ・ 特になし。

以上